

2024年度

後学期入学試験

推薦試験

一般試験

募集要項

機械専攻

電気・化学専攻

共同原子力専攻

自然科学専攻

建築都市デザイン専攻

情報専攻

	2月実施入試	5月実施入試	6月実施入試
願書受付期間	2024年 1月12日(金)～1月18日(木) 必着	2024年 5月2日(木)～5月6日(月) 必着	2024年 5月17日(金)～5月23日(木) 必着
選考(試験)	2月13日(火)～2月15日(木)	5月15日(水)	6月21日(金)～6月22日(土)
合格発表	3月1日(金) 10:00	5月20日(月) 10:00	6月28日(金) 10:00
入学手続き期限	3月29日(金) 消印有効	6月7日(金) 消印有効	7月26日(金) 消印有効

東京都市大学大学院 アドミッションポリシー

東京都市大学大学院は、持続可能な社会発展をもたらすための人材育成を目的とし、その目的を達成するための学術研究の専門分野に対応して研究科を設置しています。各研究科では、それぞれ定めた「人材養成および教育研究上の目的」に基づき、以下のような能力・意欲・目標を持つ人を求めます。

博士前期課程

現代社会では、経済・社会・環境の3つの要素を考慮し、持続可能な社会開発が求められています。そのためには、確かな専門能力に基づき横断的かつ複合的に社会の諸問題を解決できる人材が必要です。そこで、入学を希望する学生には以下の項目に対して共有できることを求めます。

1. 本学の掲げる「教育理念」と「教育目的」への共感
2. 多面的かつ複合的な視点とそれに基づく論理的思考
3. 未知な問題に対する強い関心とその解決に対するチャレンジ精神
4. 専門的な能力を有するものとして必要なコミュニケーション力
5. 人間として持つべき倫理観

博士後期課程

現代社会では、経済・社会・環境の3つの要素を考慮し、持続可能な社会開発が求められています。その開発のためには諸課題の解決を図る高度な研究能力が必要であり、さらには、新しい課題そして新しい領域を開拓する能力を身に付けることが求められています。このため、以下の項目に対して共有できる学生を求めます。

1. 現代社会の抱える諸問題を認識し社会の発展に貢献する意欲
2. 未解決課題に対応するために自らの能力を開発する力
3. 地球的視野から様々な関係者と連携しつつ諸問題の解決に取り組む能力
4. 指導的な役割を果たすために必要な実行力
5. 研究活動に求められる適切な倫理観と行動特性を有していること。

設置概要

東京都市大学大学院学則第3条より――

日々進歩する科学技術と変化の激しい社会情勢を念頭に、高度で幅広い理工学に関する理論と実践力を修得させて、学際的視野を持って応用力の涵養を図るとともに高い倫理観と国際性をそなえさせることによって、科学技術に立脚した課題の発見と多角的視野から解決策を導くことで社会貢献ができる人材の養成を目的とする。

教育の理念

地球温暖化に象徴される環境問題の深刻化、モノと情報のボーダレス化、人口集中と過疎化、さらにエネルギーやレアメタルに代表される資源の偏在と枯渇化など、私たちが地球規模で捉え解決すべき問題は、複合化、多様化しています。これら地球規模の問題解決のため、2015年9月国連で「持続可能な開発目標(SDGs)」として2030年を達成期限とする17のゴールが具体的に示されました。SDGs達成のための教育・研究への期待は大学、とりわけ大学院において高まっています。それゆえ、総合理工学研究科は「技術者・研究者として社会の要請に応える」を理念として人材育成に当たっています。社会が抱えている諸課題は、単一の専門分野からの取り組みだけでは解決は望めない場合が多く、知識を総合化し広い視野を持った技術者・研究者の育成が求められています。さらに、他分野の専門家と協力して領域を越えた連携により、成果を出すためのコミュニケーション能力やマネジメント能力が、一層強く求められるようになっていきます。

このような社会からの要請に応えるために、総合理工学研究科では専門知識と技術の着実な習得に加えて、他研究機関との連携大学院制度などを活用しながら、各自の研究課題が社会の中でもつ意義、或いは社会への影響力を判断できる能力を養えるよう配慮しています。また、社会人を対象としたプログラムも用意して、これまで以上に社会とのつながりを強く意識した教育研究を行っています。このようなプログラムにより、専門領域の知識・技術を身につけるだけでなく、科学技術と社会との結びつきから課題の解決をする技を身につけられるものと確信しています。

教育の目標

大学院総合理工学研究科では、社会から求められている国際的に活躍できる技術者・研究者を育てるための教育に取り組み、次のような能力を養うことを教育の目標としています。すなわち、①理工学におけるリテラシーである情報技術と語学を含めたコミュニケーション能力、②プレゼンテーション能力、③専門知識に裏付けされた課題を解決できる能力、を身に付けた技術者ならびに研究者の養成です。モノ作りに関わる教育プログラムを重視し、進歩のスピードを一段と速めている高度技術社会へ対応するための能力育成を重視しています。新しい知識や広範な情報とその利用技術の重要性が、日常生活のあらゆる面で増す一方です。そこで、情報を多面的に活用する医療や経営の分野、さらに環境やエネルギー、ナノテク、バイオなどの新規分野を取り込み、その充実も図っています。モノから知識へと転換しつつある世の中とはいえ、モノの価値やモノ作りの重要性が低下しているわけではありません。むしろ、環境に配慮し、持続的な発展を可能とする付加価値を付けたモノを世に送り出すために、理工学の知識と技術の価値は従来にも増して高まっています。

育成すべき人材

□博士前期課程

自然科学や語学などの基礎となる科目、科学技術の基盤となる科目及び科学技術と社会の接点を理解するために必要な教養科目の習得が求められます。その上で、専門知識と技術が着実に身につけられるような教育プログラムが用意されています。そして、大学院生には専門知識を深化させるだけでなく、総合化することを求めています。各専攻では、博士前期課程において**専門知識を生かし、国際的に活躍できる語学力を養い、社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い応用力と実践力を身に付け、課題を解決できる能力を有する技術者・研究者を「育成すべき人材」として目標としています。**

□博士後期課程

専門知識と技術を一層深化させると同時に、他大学や研究機関あるいは企業との共同研究などを通して、コミュニケーション能力やマネジメント能力を涵養しながら高度な研究能力が身に付けられる環境を整えています。各専攻では、博士後期課程修了後には、国内外の大学や研究機関、さらに企業の研究部門において、**先端的な知識と技術を駆使し、着実に課題を解決するとともに、新しい領域を開拓できる能力を備えた技術者・研究者として活躍できる人材となることを目標とした指導を行い、さらに、高度な自律性を備えるように支援をしています。**

今後への期待

学部における教育課程では、専門理工学基礎を身につけ、卒業研究ではそれを活用する経験を積んできたと思います。入学された大学院では、それらの知識と経験を活用して、さらに工夫を加えて「知恵」を磨くことが肝要です。このことを心がけて、上記目標に沿う人材として研鑽を重ね、人間として、技術者・研究者として成長することを期待しています。

設置概要

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー） - 大学院総合理工学研究科 -

□博士前期課程

高度な専門知識を学ぶとともに国際的に活躍できる語学力を養うことで研究能力を高め、これらの能力に裏付けられた課題発見力と解決力を活かして社会情勢の変化に迅速に対応することで、科学技術社会に幅広く貢献できる能力を身に付けさせることが教育の目標です。このため、入学を希望する学生に求めている資質と能力は、以下の項目を具備していることです。

1. 総合理工学研究科の掲げる「教育の理念」と「教育の目標」へ共感
2. 理工系専門学力の基礎を有し、多面的な視点からの論理的思考
3. 未知な研究分野への強い関心とチャレンジ精神
4. 技術者・研究者として必要な語学力と高度な倫理観

□博士後期課程

先端的な知識と技術を駆使し、社会からの要請に応えるための課題を設定し、その課題を着実に解決するとともに、新しい領域を開拓できる能力を養うことを教育の目標にしています。このため、入学を希望する学生に求めている資質と能力は、博士前期課程において、上記の4項目を十分に身に付けた上で、以下の4項目を具備していることです。

1. 未開の知見を得るための研究活動に必要な幅広い専門学力
2. 自立した研究者になるために、課題解決を目指す研究遂行の持続力
3. 社会における指導的な役割を果たすために必要な実行力
4. グローバルに活躍できるコミュニケーション能力の基礎

教育課程の編成方針（カリキュラムポリシー） - 大学院総合理工学研究科 -

□博士前期課程

理工学に関する高い専門性、語学力及び情報活用能力を修得させることによって、学際的な分野への対応能力を含めた専門的深化により応用力を培うとともに倫理観と国際性をそなえさせ、これらの能力に裏付けられた課題発見力と解決力を活かして社会情勢の変化に迅速に対応することで、科学技術社会に幅広く貢献できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。

1. 理工学に関する専門知識と実践力を国際社会の発展に役立てられるように、総合教養科目群及び総合基礎科目群を編成し、英語の語学能力や情報活用能力の他、国際感覚が身に付く科目を編成する。
2. 社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い理工学に関する高度な専門知識と実践力が身に付くように、各専攻において専門基礎科目群と専門科目群を編成し、専門基礎科目群の科目履修により専門的な基礎知識を、また、専門科目群の科目履修により実践的な力が身に付くように、編成する。
3. 国際社会における理工学に関する課題を自らが発見し解決できる能力が身に付くように、各専攻において実習と特別研究を編成する。

□博士後期課程

学際的視野を持って自立して研究活動を行うのに必要な理工学に関する学識、研究能力、倫理観及び国際性を高度にそなえさせることによって、先端的な知識と技術を駆使して、社会からの要請に応えるための課題を設定し、その課題を着実に解決できるとともに、新しい領域を開拓できる人材を養成するため、次のように教育課程を編成する。

1. 理工学に関する新たな知見をまとめて学問として専門知識を体系化できる能力が身に付くように、各専攻において講究科目群を編成する。
2. 他研究・開発機関との技術交流を通じて、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力が身に付くように、各専攻において特殊研究科目群を編成し、他大学や企業との共同研究を推進する。

学位授与に関する方針（ディプロマポリシー） - 大学院総合理工学研究科 -

□博士前期課程

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で修士論文又は特定の課題についての研究成果等の審査及び最終試験に合格した者に、専攻に応じて修士（工学）又は修士（理学）の学位を与える。

1. 理工学に関するより高度な専門知識と実践力を、国際社会発展のために役立てることのできる語学及び情報活用能力を身に付けている
2. 社会構造の変化に迅速に対応できる幅広い理工学に関する高度な専門知識を有し、それを応用できる実践力を身に付けている
3. 国際社会における理工学に関する課題を自らが発見し、解決できる能力を身に付けている

□博士後期課程

所定の年限在学し、以下の知識と能力とともに所定の単位数を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、専攻に応じて博士（工学）又は博士（理学）の学位を与える。

1. 理工学に関する新たな研究によって得られた知見をまとめあげ、より深化した学問として専門知識を体系化できる能力を身に付けている
2. 他研究・開発機関との技術交流を通じて、先端的な知識と技術を駆使し社会ニーズを意識しながら、着実に課題を解決するとともに新しい領域を開拓できる研究能力を身に付けている。

指導教員（予定）

2024年9月予定

専攻	領域	英語による 修士論文指導	英語による 授業実施	職位	指導教員	専攻	領域	英語による 修士論文指導	英語による 授業実施	職位	指導教員
機械	機械工学	●	—	教授	伊東 明美	自然科学	自然科学	—	—	教授	飯島 正徳
		●	☆	教授	崔 竣豪			●	●	教授	糸井 充穂
		●	☆	教授	白木 尚人			●	●	教授	長田 剛
		●	●	教授	西部 光一			●	●	教授	須藤 誠一
		●	●	教授	藤間 卓也			●	☆	教授	田邊 顕一郎
		●	●	教授	三原 雄司			—	—	教授	福田 達哉
		●	●	准教授	及川 昌訓			—	—	教授	吉田 真史
		●	●	准教授	亀山 雄高			—	—	准教授	出末 光夫
		●	●	准教授	岸本 喜直			●	—	准教授	田中 健太郎
		●	●	准教授	小玉 脩平			●	●	准教授	津村 耕司
		●	☆	准教授	小林 志好			●	—	准教授	中島 保寿
		●	☆	准教授	櫻井 俊彰			●	●	准教授	西村 太樹
		●	—	准教授	佐藤 秀明			—	—	准教授	服部 新
		●	☆	准教授	杉町 敏之			—	—	准教授	堀越 篤史
	●	—	准教授	富士原 民雄	—		—	講師	門多 顕司		
	●	●	准教授	丸山 恵史	●		●	教授	岩下 剛		
	●	●	教授	秋田 真一	—		—	教授	小見 康夫		
	●	●	教授	熊谷 正芳	●		●	教授	小林 茂雄		
	●	●	教授	島野 健仁郎	●		●	教授	手塚 真晴		
	●	●	教授	白鳥 英	—		—	教授	原田 公明		
	●	●	教授	関口 和真	—		—	教授	福島 加津也		
	●	●	教授	田中 康寛	—		—	教授	堀場 弘		
	●	●	教授	野中 謙一郎	●		●	准教授	大村 哲矢		
	●	●	教授	三宅 弘晃	—		—	准教授	落合 陽		
	●	●	教授	宮坂 明宏	●		●	准教授	佐藤 幸恵		
	●	—	准教授	佐藤 大祐	●		●	准教授	焦 瑜		
	●	●	准教授	永野 秀明	—		—	准教授	中川 純		
	●	●	准教授	藪井 将太	—		—	講師	片桐 悠自		
	●	●	准教授	渡邊 力夫	●		●	教授	秋山 祐樹		
	—	●	講師	土方 規実雄	●		☆	教授	伊藤 和也		
	—	—	教授	天雨 徹	●		●	教授	白旗 弘実		
	●	●	教授	石川 亮佑	●		●	教授	珠玖 隆行		
●	●	教授	岩尾 徹	●	●	教授	末政 直晃				
●	●	教授	澤野 憲太郎	●	●	教授	関屋 英彦				
●	●	教授	中島 達人	●	●	准教授	稲垣 具志				
●	●	教授	野平 博司	●	●	准教授	小野村 史穂				
●	●	教授	三谷 祐一郎	●	●	准教授	栗原 哲彦				
●	●	准教授	鈴木 憲吏	●	●	准教授	五艘 隆志				
●	●	准教授	鳥居 肅	●	●	教授	荒井 秀一				
●	●	准教授	星 裕介	●	●	教授	大屋 英稔				
●	●	教授	京相 雅樹	●	●	教授	岡野 好伸				
●	☆	教授	早坂 信哉	●	●	教授	河合 孝純				
●	●	教授	森 晃	●	●	教授	傘 昊				
●	●	教授	和多田 雅哉	●	●	教授	高橋 弘毅				
●	●	准教授	坂口 勝久	●	●	教授	田口 亮				
●	●	准教授	桃沢 愛	●	●	教授	中野 秀洋				
●	●	准教授	横山 草介	●	—	教授	山口 敦子				
●	☆	講師	小林 千尋	●	●	教授	齋 明連				
●	●	教授	江場 宏美	●	—	准教授	相原 研輔				
●	●	教授	金澤 昭彦	—	●	准教授	張 英夏				
●	●	教授	黒岩 崇	—	—	准教授	新家 稔央				
●	●	教授	高津 淑人	—	—	准教授	林 正博				
—	—	教授	高橋 政志	●	●	准教授	平野 拓一				
—	—	准教授	岩村 武	●	●	教授	桂 卓成				
●	☆	准教授	奥中 さゆり	●	●	教授	塩本 公平				
●	●	准教授	小林 亮太	●	●	教授	神野 健哉				
●	●	准教授	塩月 雅士	●	●	教授	田中 宏和				
●	●	准教授	秀島 翔	●	●	教授	森 博彦				
●	●	教授	大島 靖樹	●	☆	講師	穴田 一				
●	●	教授	河原林 順	●	●	講師	ニーナ スヴァリドヴァ				
●	●	教授	佐藤 勇								
●	●	教授	鈴木 徹								
●	●	教授	高木 直行								
●	●	教授	中村 いずみ								
●	●	教授	牟田 仁								
●	●	准教授	西山 潤								
●	●	准教授	羽倉 尚人								
●	●	准教授	松浦 治明								
電気・化学	電気電子工学	—	—	教授	飯島 正徳	建築都市デザイン	建築学	●	●	教授	岩下 剛
		●	●	教授	小見 康夫			—	—	教授	小見 康夫
		●	●	教授	小林 茂雄			●	●	教授	手塚 真晴
		●	●	教授	原田 公明			—	—	教授	原田 公明
		●	●	教授	福島 加津也			—	—	教授	堀場 弘
		●	●	准教授	大村 哲矢			●	●	准教授	大村 哲矢
		—	—	准教授	落合 陽			—	—	准教授	落合 陽
		●	●	准教授	佐藤 幸恵			●	●	准教授	焦 瑜
		—	—	准教授	中川 純			—	—	講師	片桐 悠自
		●	●	教授	秋山 祐樹			●	☆	教授	伊藤 和也
		●	●	教授	白旗 弘実			●	●	教授	白旗 弘実
		●	●	教授	珠玖 隆行			●	●	教授	末政 直晃
		●	●	教授	関屋 英彦			●	●	教授	関屋 英彦
		●	●	准教授	稲垣 具志			●	●	准教授	稲垣 具志
●	●	准教授	小野村 史穂	●	●	准教授	栗原 哲彦				
●	●	准教授	栗原 哲彦	●	●	准教授	五艘 隆志				
●	●	教授	荒井 秀一	●	●	教授	大屋 英稔				
●	●	教授	岡野 好伸	●	●	教授	河合 孝純				
●	●	教授	傘 昊	●	●	教授	高橋 弘毅				
●	●	教授	田口 亮	●	●	教授	中野 秀洋				
●	●	教授	山口 敦子	●	—	教授	齋 明連				
●	●	教授	齋 明連	●	—	准教授	相原 研輔				
—	—	准教授	張 英夏	—	—	准教授	林家 稔央				
—	—	准教授	林 正博	●	●	准教授	平野 拓一				
●	●	教授	桂 卓成	●	●	教授	塩本 公平				
●	●	教授	神野 健哉	●	●	教授	田中 宏和				
●	●	教授	森 博彦	●	☆	講師	穴田 一				
●	●	講師	ニーナ スヴァリドヴァ	●	●	講師	ニーナ スヴァリドヴァ				
共同原子力	共同原子力	—	—	教授	飯島 正徳	情報	情報工学	●	●	教授	高橋 弘毅
		●	●	教授	田口 亮			●	●	教授	中野 秀洋
		●	●	教授	山口 敦子			●	—	教授	齋 明連
		●	—	准教授	相原 研輔			—	—	准教授	張 英夏
		—	—	准教授	林家 稔央			—	—	准教授	林 正博
		●	●	准教授	平野 拓一			●	●	教授	桂 卓成
		●	●	教授	塩本 公平			●	●	教授	神野 健哉
		●	●	教授	田中 宏和			●	●	教授	森 博彦
		●	☆	講師	穴田 一			●	●	講師	ニーナ スヴァリドヴァ
		●	●	講師	ニーナ スヴァリドヴァ						

○：2026年3月に退職予定

英語による論文指導 英語による授業実施指導対応

●：対応可 ●：対応可

—：対応不可 ☆：授業によって対応可

 —：対応不可

※教育上の配慮から日程によっては学生募集しない指導教員もいます。

指導教員（予定）

2024年9月予定

専攻	領域	英語による 博士論文指導	英語による 授業実施	職位	指導教員	専攻	領域	英語による 博士論文指導	英語による 授業実施	職位	指導教員
機械	機械工学	●	—	教授	伊東 明美	自然科学	自然科学	●	●	教授	糸井 充穂
		●	☆	教授	崔 竣豪			●	●	教授	長田 剛
		●	☆	教授	白木 尚人			●	●	教授	須藤 誠一
		●	●	教授	西部 光一			●	☆	教授	田邊 顕一朗
		●	●	教授	藤間 卓也			—	—	教授	福田 達哉
		●	●	教授	三原 雄司			—	—	教授	吉田 真史 △
		●	●	准教授	及川 昌訓			—	—	准教授	出未 光夫
		●	●	准教授	亀山 雄高			●	—	准教授	田中 健太郎
		●	●	准教授	岸本 喜直			●	●	准教授	津村 耕司
		●	●	准教授	小玉 脩平			●	—	准教授	中島 保寿
		●	—	准教授	佐藤 秀明 △			●	●	准教授	西村 太樹
		●	☆	准教授	杉町 敏之			●	●	准教授	服部 新
	機械システム工学	●	●	准教授	丸山 恵史	●	●	教授	岩下 剛		
		●	●	教授	秋田 貢一	—	—	教授	小見 康夫 ◎		
		●	●	教授	熊谷 正芳	●	●	教授	小林 茂雄		
		●	●	教授	島野 健仁郎	—	—	教授	原田 公明 ◎		
		●	●	教授	白鳥 英	●	●	准教授	大村 哲矢		
		●	●	教授	関口 和真	●	●	准教授	佐藤 幸恵		
		●	●	教授	田中 康寛 ◎	●	●	准教授	焦 瑜		
		●	●	教授	野中 謙一郎	—	—	准教授	中川 純		
		●	●	教授	三宅 弘晃	—	—	講師	片桐 悠自		
		●	●	教授	宮坂 明宏 △	●	●	教授	秋山 祐樹		
		●	●	准教授	永野 秀明	●	☆	教授	伊藤 和也		
		●	●	准教授	藪井 将太	●	●	教授	白旗 弘実		
		—	●	講師	土方 規実雄	●	●	教授	珠玖 隆行		
		電気電子工学	●	●	教授	石川 亮佑	●	●	教授	末政 直晃 △	
			●	●	教授	岩尾 徹	●	●	教授	関屋 英彦	
			●	●	教授	澤野 憲太郎	●	●	准教授	稲垣 具志	
●	●		教授	中島 達人 △	●	●	准教授	小野村 史穂			
●	●		教授	野平 博司	●	●	准教授	栗原 哲彦			
●	●		教授	三谷 祐一郎	●	●	准教授	五艘 隆志			
●	●		准教授	鈴木 憲吏	●	●	教授	荒井 秀一 ◎			
●	●		准教授	鳥居 肅	●	●	教授	大屋 英稔			
●	●		准教授	星 裕介	●	●	教授	岡野 好伸			
電気・化学	医用工学		●	●	教授	京相 雅樹	●	●	教授	河合 孝純	
			●	☆	教授	早坂 信哉	●	●	教授	傘 昊	
	●		●	教授	森 晃 ○	●	●	教授	高橋 弘毅		
	●	●	教授	和多田 雅哉 ◎	●	●	教授	田口 亮 ◎			
	応用化学	●	●	教授	江場 宏美	●	●	教授	中野 秀洋		
		●	●	教授	金澤 昭彦 △	●	—	教授	山口 敦子		
		●	●	教授	黒岩 崇	●	●	教授	兪 明連		
		●	●	教授	高津 淑人	●	—	准教授	相原 研輔		
		—	—	教授	高橋 政志 ○	—	●	准教授	張 英夏		
		—	—	准教授	岩村 武	—	—	准教授	新家 稔央		
●		☆	准教授	奥中 さゆり	—	—	准教授	林 正博 △			
●		●	准教授	小林 亮太	●	●	准教授	平野 拓一			
共同原子力	共同原子力	●	●	准教授	塩島 雅士	●	●	教授	桂 卓成		
		●	●	准教授	秀島 翔	●	●	教授	塩本 公平		
		●	●	教授	大鳥 靖樹	●	●	教授	神野 健哉		
		●	●	教授	河原林 順	●	●	教授	田中 宏和		
		●	●	教授	佐藤 勇	●	●	教授	森 博彦 △		
		●	●	教授	鈴木 徹						
		●	●	教授	高木 直行						
		●	●	教授	中村 いずみ						
		●	●	教授	牟田 仁						
		●	●	准教授	西山 潤						
		●	●	准教授	羽倉 尚人						

○：2026年3月に退職
 ◎：2027年3月に退職
 △：2028年3月に退職

英語による論文指導 英語による授業実施指導対応
 ●：対応可 ●：対応可
 —：対応不可 ☆：授業によって対応可
 —：対応不可

※教育上の配慮から日程によっては学生募集しない指導教員もいます。

入試制度・募集人員・出願資格と選考

1. 入学試験概要

課程	入試制度		概要
博士前期課程	推薦試験	学内推薦入試	<p>本学からの進学希望者で、学力・人物ともに優秀な学生については、推薦による入学を認めます。</p> <p>【選考方法】</p> <p>①出願書類に関する審査 ②面接試験</p>
		海外協定校特別推薦入試	<p>海外協定校からの進学希望者で、所属する学科等の主任教授等、及び在籍大学又は学長に相当する者の推薦を得ている者について、出願書類に関する審査及び面接試験を総合して選考します。</p> <p>【選考方法】</p> <p>① 出願書類に関する審査 ②面接試験</p>
	一般試験	一般選抜	<p>学力試験・面接試験・出願書類に関する審査より選考します。</p> <p>【選考方法】</p> <p>①学力試験 ②面接試験 ③出願書類に関する審査</p>
		社会人選抜	<p>出願時に十分な実務経験（志願する専門分野に関係する実務経験を2年以上）を有している者について、出願書類に関する審査及び口述試験を含む面接試験を総合して選考します。</p> <p>【選考方法】</p> <p>①出願書類に関する審査 ②面接試験（口述試験を含む）</p>
		留学生特別選抜	<p>本学の海外協定校以外の海外教育機関からの留学生で、専攻する分野に関連して特別な素養を有している者に対し、出願書類に関する審査及び口述試験を含む面接試験を総合して選考します。※出願の1ヶ月以上前に本人からの事前申請を要します。</p> <p>【選考方法】</p> <p>②出願書類に関する審査 ②面接試験（口述試験を含む）</p>
	博士後期課程	推薦試験	海外協定校特別推薦入試
一般選抜			<p>出願書類に関する審査及び口述試験を含む面接試験により選考します。</p> <p>【選考方法】</p> <p>①出願書類に関する審査 ②面接試験（口述試験を含む）</p>
一般試験		社会人選抜	<p>出願時に十分な実務経験（志願する専門分野に関係する実務経験を2年以上）を有している者について、出願書類に関する審査及び口述試験を含む面接試験を総合して選考します。</p> <p>【選考方法】</p> <p>①出願書類に関する審査 ②面接試験（口述試験を含む）</p>

入試制度・募集人員・出願資格と選考

入試制度		2月実施入試	5月実施入試	6月実施入試
博士前期課程	学内推薦入試	実施しない	●	実施しない
	海外協定校特別推薦	●	●	実施しない
	一般選抜	●	実施しない	●
	社会人選抜	●	実施しない	●
	留学生特別選抜	●	●	実施しない
博士後期課程	海外協定校特別推薦	●	●	実施しない
	一般選抜	●	実施しない	●
	社会人選抜	●	実施しない	●

選考過程	2月実施入試	5月実施入試	6月実施入試
出願期間	2024年 1月12日(金)～ 1月18日(木) 必着	2024年 5月2日(木)～ 5月6日(月) 必着	2024年 5月17日(金)～ 5月23日(木) 必着
試験日	2月13日(火)～ 2月15日(木)	5月15日(水)	6月21日(金)～ 6月22日(土)
合格発表	3月1日(金) 10:00	5月20日(月) 10:00	6月28日(金) 10:00
手続期限	3月29日(金) 消印有効	6月7日(金) 消印有効	7月26日(金) 消印有効
試験場	本学世田谷キャンパス		

※ 国外からの志願者についてオンラインでの受験を認める場合がありますが、入学までに留学ビザ等(ただし短期滞在ビザは不可。)を取得し、入学後(2024年9月以降)は本学に登学できることが前提となります。

注意事項

- ・2月実施入試は、2024年度入試(C日程)と同日に実施します。
- ・5月実施入試は、2025年度入試(A日程)と同日に実施します。
- ・5月実施入試において、「JICA 2024年秋受入長期研修プログラム」による志願者については、合格発表および手続期限をJICA経由で別途指示します。
- ・海外在住で、オンラインでの受験を希望する場合は出願前に相談してください。
- ・別途指示の上、WEB等を利用して学力試験や面接試験を実施する場合があります。
指示があった場合に備え、あらかじめ以下の4点がすべて可能な環境を整えておいてください。

1. コンピューターを所持し、自身が受験する期日・時間帯に動画・音声の送信・受信を行えるインターネット環境と、試験の回答、面接ができるような静かな環境・設備(webカメラ・イヤホン・マイク等)を用意すること。
2. Microsoft Office(Word, Excel など)で作成されたファイルを開き、編集すること。
3. Adobe pdfで作成されたファイルを開くこと。
4. 自身が作成した答案を文字・図表が鮮明な状態で保存・撮影し、送信すること(スマホ等の使用可)。

入試制度・募集人員・出願資格と選考

2. 募集人員

研究科	専攻	募集人員	
		博士前期課程	博士後期課程
総合理工学研究科	機械専攻	85名	10名
	電気・化学専攻	110名	12名
	共同原子力専攻	15名	4名
	自然科学専攻	20名	2名
	建築都市デザイン専攻	90名	12名
	情報専攻	80名	10名

※2024年度入試全体の人数です。入学後（2024年9月以降）は本学に登学できることが出願の前提となります。

3-1. 学内推薦入試

博士前期課程

◎出願資格

本学卒業見込者であり、次の各号の一に該当するとともに本学大学院の志望専攻への進学を第1志望とし、合格後に志望専攻への入学を確約する者。

- (1) 出願を行う前年度に3年生であり、かつ学業成績上位者(学部の成績が学科全体の1/2以内であること)
- (2) 出願を行う前年度に4年生であり、かつ学業成績3年生の成績上位1/2以内と同等以上である者
- (3) 2024年2月に東京都市大学大学院総合理工学研究科入学試験（C日程）と同時に実施した『推薦試験出願資格取得のための認定試験』に合格した者※

※(3)に該当する場合は、当該認定試験の出願時に記載した専攻（領域）・指導教員でのみ出願できるものとする。

◎選考

試験日程（5月）	試験時間（日本時間）	試験科目
5月15日（水）	14:30～	面接試験

3-2. 海外協定校特別推薦入試

博士前期課程・博士後期課程

◎出願資格

東京都市大学国際交流に関する規程で定める交流協定を締結した外国の大学からの進学希望者で、一般試験と同様の出願資格を有する者。かつ、所属する学科等の主任教授等及び在籍大学又は大学院の学長に相当する者の推薦を得ている者。（2024年9月卒業見込み者を含む。）

◎選考

試験日程（2月）	試験時間（日本時間）	試験科目
2月15日（木）	13:00～	面接試験

試験日程（5月）	試験時間（日本時間）	試験科目
5月15日（水）	14:30～	面接試験

※日本国外からの志願者等については、試験時間を変更する場合があります。

入学後（2024年9月以降）は本学に登学できることが出願の前提となります。

入試制度・募集人員・出願資格と選考

3-3. 一般選抜

博士前期課程

◎出願資格

本大学院の博士前期課程に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 大学を卒業した者（2024年9月20日までの卒業見込み者を含む）
- (2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者（2024年9月20日までの修了見込み者を含む）
- (4) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修することにより当該国の16年の課程を修了した者
- (5) 我が国において、外国の大学相当として指定した外国の学校の課程を修了した者
- (6) 外国の大学等（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上の課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (8) 文部科学大臣の指定した者
- (9) その他本大学院において大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

●注意

(6)または(9)での出願を志望する場合、予め該当の可否を判断するため、出願から30日以上前までにお問い合わせください。

入学後（2024年9月以降）は本学に登学できることが出願の前提となります。

◎選考

試験日程（2月）	試験時間（日本時間）	試験科目
2月13日（火）	12:30～17:00	専門科目② 建築設計 （建築都市デザイン専攻 建築学領域 一部志願者のみ）
2月14日（水）	10:00～11:30	外国語（英語）※ ¹
	12:30～15:30	専門科目※ ² ※ ³
2月15日（木）	13:00～	面接試験

試験日程（6月）	試験時間（日本時間）	試験科目
6月21日（金）	12:30～17:00	専門科目② 建築設計 （建築都市デザイン専攻 建築学領域 一部志願者のみ）
6月22日（土）	10:00～11:30	外国語（英語）※ ¹
	12:30～15:30	専門科目※ ² ※ ³
	17:00～	面接試験

日本国外からの志願者等については、試験時間を変更する場合があります。

※¹ 外国語科目（英語）受験の際、各自が用意する英和辞書（留学生の受験者は英中辞書等、母国語の英語辞書を使用可）の使用を認めます。ただし、電子辞書の使用は不可とします。

※² 専門科目受験の際、各自が用意する関数電卓の使用を認めます。

※³ 専門科目②で建築設計を選択した場合、試験時間は12:30～14:00となります。

入試制度・募集人員・出願資格と選考

博士後期課程

◎出願資格

本大学院の博士後期課程に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 修士の学位又は専門職学位を有する者（2024年9月20日までの修了見込み者を含む）
- (2) 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者（2024年9月20日までの修了見込み者を含む）
- (3) 外国の学校が行う通信教育を我が国において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者
- (4) 我が国において、外国の大学院相当として指定した外国の学校の課程を修了し、修士の学位や専門職学位に相当する学位を授与された者
- (5) 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) その他本大学院において修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者

●注意

(7)での出願を志望する場合、予め該当の可否を判断するため、出願から30日以上前までにお問い合わせください。

入学後（2024年9月以降）は本学に登学できることが出願の前提となります。

◎選考

試験日程（2月）	試験時間	試験科目
2月15日（木）	13:00～（日本時間）	面接試験（口述試験を含む）

試験日程（6月）	試験時間	試験科目
6月22日（土）	17:00～（日本時間）	面接試験（口述試験を含む）

日本国外からの志願者等については、試験時間を変更する場合があります。

入試制度・募集人員・出願資格と選考

3-4. 社会人選抜

博士前期課程・博士後期課程

◎出願資格

出願時に十分な実務経験（2年以上）を有し、かつ「一般選抜」の出願資格を満たしている者。
なお、実務経験（2年以上）は、志願する専門分野に関係する実務経験であること。

◎選考

試験日程（2月）	試験時間	試験科目
2月15日（木）	13:00～（日本時間）	面接試験（口述試験を含む）

試験日程（6月）	試験時間	試験科目
6月22日（土）	17:00～（日本時間）	面接試験（口述試験を含む）

- ・ 国外からの志願者等については、試験時間を変更する場合があります。
- ・ 授業料の減免制度があります（所定の修業年限に適用）。志願者の希望に基づき本学による審査の結果、博士後期課程では授業料年額の90%を、博士前期課程では授業料年額の50%を減免する場合があります。

3-5. 留学生特別選抜

博士前期課程

◎出願資格

以下(1)～(4)の全てを満たす者とする。

- (1) 「一般選抜」の出願資格を充たし、かつ専攻する分野に関連して特別な素養を有している者
- (2) 日本国以外の国籍を有し、入学時に「留学」の在留資格が取得可能である者
- (3) 日本国外に設置された教育機関（本学の海外協定校を除く）で、日本国以外の教育課程を修了した者（2024年9月20日までの修了見込み者を含む）
- (4) 事前審査において、本選抜への出願が認められた者

◎選考

試験日程（2月）	試験時間	試験科目
2月15日（木）	13:00～（日本時間）	面接試験（口述試験を含む）

試験日程（5月）	試験時間（日本時間）	試験科目
5月15日（水）	14:30～	面接試験

国外からの志願者等については、試験時間を変更する場合があります。

学力試験 科目・注意事項 【博士前期課程 一般選抜】

専攻	領域	日時	試験科目		
		2/14 (水)			
		6/22 (土)			
機械	機械工学	10:00～11:30	外国語科目	英語	必須
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：工業力学 力のつりあいとモーメントのつりあい、トラス、分布力、重心および慣性モーメント、剛体の並進と回転運動、剛体の力学、摩擦力および力学的エネルギーの保存則から出題する。 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を解くこと。	
	機械システム工学	10:00～11:30	外国語科目	英語	必須
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：数学・工業力学 数学 ：線形代数学、微分積分学（微分方程式を含む）、ベクトル解析、フーリエ解析の分野から出題する。 工業力学 ：機械力学の基礎である剛体の力学（静力学）について出題する。特に、力学とベクトル、力と力のモーメント、重心、剛体のつりあい、摩擦と仕事、仮想仕事の原理から出題する。 ◆専門科目②：電気物理・指導教員科目 電気物理 ：電磁気学（クーロンの法則、電界、静電容量、磁界、ローレンツ力、電磁誘導）の分野から出題する。 指導教員科目 ：別掲の指導教員科目一覧から、志願者の希望する指導教員より指定されている科目を必ず選択すること。	
電気・化学	電気電子工学	10:00～11:30	外国語科目	英語	必須
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：電気基礎 電気回路 （直流回路、交流回路、三相交流回路、相互誘導とブリッジ回路、ひずみ波、直流回路と交流回路の過渡現象、二端子対回路）と 電磁気学 （クーロンの法則、ガウスの法則、電界、静電容量、磁界、電磁誘導、インダクタンス）の分野からの選択問題とする。 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を解くこと。	
	医用工学	10:00～11:30	外国語科目	英語	必須
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：電気基礎・医用器械基礎から選択解答する。 電気基礎 ：電気回路（直流回路、交流回路、三相交流回路、相互誘導とブリッジ回路、ひずみ波、直流回路と交流回路の過渡現象、二端子対回路）と電磁気学（クーロンの法則、ガウスの法則、電界、静電容量、磁界、電磁誘導、インダクタンス）の分野からの選択問題とする。 医用器械基礎 ：基礎力学、機構学、医用材料から出題する。 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を解くこと。	
	応用化学	10:00～11:30	外国語科目	英語	
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：化学基礎・化学熱力学・物理化学(1)・物理化学(2)・量子化学の5問から2問を選択し、解くこと。 化学基礎 ：大学初年次程度の一般化学 化学熱力学 ：気体の性質、各種の熱力学関数（エンタルピー、エントロピー、ギブズエネルギー）、熱化学方程式、化学平衡、相平衡 物理化学(1) ：分子軌道法、混成軌道、結合の極性と分子分極、イオン結合とイオン結晶 物理化学(2) ：反応速度式、反応機構、素反応と複合反応、反応速度の温度依存性 量子化学 ：原子の構造、光の粒子性と物質の波動性、電子の軌道とエネルギー準位、波動関数とシュレディンガー方程式、水素原子と多電子原子、周期律 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を1問選択し、解くこと。	

学力試験 科目・注意事項【博士前期課程 一般選抜】

専攻	領域	日時		試験科目	
		2/14 (水)	6/22 (土)		
共同原子力	共同原子力	10:00～11:30	外国語科目	英語	必須
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：原子力・放射線基礎 「原子力工学(2問)」、「放射能・放射線(1問)」、「物理(1問)」、「化学(1問)」及び「数学(1問)」から任意の4問を選択解答すること。 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を解くこと。	
自然科学	自然科学	10:00～11:30	外国語科目	英語	必須
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：数学、物理学、化学、生物学、地学の5問から2問を選択すること。 数学 ：解析学、代数学、幾何学 物理学 ：量子力学 化学 ：物理化学、有機化学、無機化学 生物学 ：動物学、植物学、微生物学 地学 ：地質学、古生物学、惑星科学 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を選択すること。	
建築都市デザイン	建築学	選択する科目によって日時が異なるため、後に示した別表を参照すること。			
	都市工学	10:00～11:30	外国語科目	英語	
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：専門総合科目 水理学、コンクリート工学、構造力学、地盤工学、都市計画学の5問から受験時に2問を選択し、解答。 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を解くこと。	
情報	情報工学	10:00～11:30	外国語科目	英語	
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：電気基礎・コンピュータ概論・基礎確率統計から選択解答する。 電気基礎 ：電気回路（直流回路、交流回路、三相交流回路、相互誘導とブリッジ回路、ひずみ波、直流回路と交流回路の過渡現象、二端子対回路）と電磁気学（クーロンの法則、ガウスの法則、電界、静電容量、磁界、電磁誘導、インダクタンス）の分野からの選択問題とする。 コンピュータ概論 ：「向井信彦・田村慶信・細野泰彦、コンピュータ概論、オーム社」より出題。 基礎確率統計 ：データの代表値（平均値、分散、標準偏差、相関係数、回帰直線）、確率分布と期待値・分散（正規分布、一様分布、指数分布、t-分布、カイ二乗分布、二項分布、ポアソン分布）、母平均・母分散の区間推定と仮説検定から出題。 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を解くこと。	
	システム情報工学	10:00～11:30	外国語科目	英語	
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：コンピュータ概論・基礎確率統計から選択解答する。 コンピュータ概論 ：「向井信彦・田村慶信・細野泰彦、コンピュータ概論、オーム社」。 基礎確率統計 ：データの代表値（平均値、分散、標準偏差、相関係数、回帰直線）、確率分布と期待値・分散（正規分布、一様分布、指数分布、t-分布、カイ二乗分布、二項分布、ポアソン分布）、母平均・母分散の区間推定と仮説検定から出題。 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を解くこと。	

別表

建築都市デザイン専攻 建築学領域受験者は、学力試験日が異なる場合がある。
以下より自身の該当する試験日程を確認し、受験すること。

専門科目② 指導教員科目が「建築設計」ではない 場合

専攻	領域	日時	試験科目		
		2/14 (水) 6/22 (土)			
建築都市デザイン	建築学	10:00～11:30	外国語科目	英語	必須
		12:30～15:30	専門科目	◆専門科目①：専門総合科目 建築計画・建築史、建築構造学、建築生産・材料、建築環境設備学の各分野を出題する。 なお、専門科目②で建築設計を選択する場合は、専門科目②は別日受験となるため、専門科目①のみの試験時間となるので注意すること。 ◆専門科目②： 別掲の指導教員科目を選択し、回答すること。	

専門科目② 指導教員科目に「建築設計」が指定されている 場合

※学力試験が2日間となるため、注意すること。

専攻	領域	日時	試験科目		
		2/13 (火) 6/21 (金)			
建築都市デザイン	建築学	12:30～17:00	専門科目②	◆専門科目②：建築設計	指導教員科目が「建築設計」となっている者は、この日も受験すること。
		日時 2/14 (水) 6/22 (土)	試験科目		
		10:00～11:30	外国語科目	英語	必須
		12:30～14:00	専門科目①	◆専門科目①：専門総合科目 建築計画・建築史、建築構造学、建築生産・材料、建築環境設備学の各分野を出題する。 ※専門科目②は前日に受験済みとなるため、 専門科目①が終了後、指示に従って退出すること。	

注意事項等

1. 出願時に、外国語科目を受験するか受験免除を希望するかを選択してください。
2. 外国語科目受験の際、各自が用意する英和辞書(留学生の受験者は英中辞書等、母国語の英語辞書を使用可)の使用を認めます。ただし、参考書(単語帳を含む)や、電子辞書の使用は認めません。
3. 専門科目受験の際、各自が用意する関数電卓の使用を認めます。
4. 学力試験で未受験の科目がある場合には、面接試験の受験を認めません。
5. 一般入試 一般選抜における基準達成による科目試験免除について
入学試験に不合格であっても、外国語科目において基準点を満たした場合は、次回の科目試験の受験を免除する場合があります。

上記詳細については、出願前までに教学部 教学課(世田谷キャンパス)までお問い合わせください。

指導教員科目一覧【博士前期課程 一般選抜】

指導教員科目一覧 博士前期課程 一般選抜

指導教員科目一覧において、指導教員科目の受験を指示されている専攻(領域)については、指示に従って受験すること。指示された指導教員科目を解かなかつた場合には、0点となる。

専攻	領域	指導教員	科目名	出題範囲
機械	機械工学	岸本 喜直	材料力学	①物体の引張・圧縮変形における応力とひずみ, ②はりの曲げにおける応力とたわみ, ③モールの応力円から出題する。
		小林 志好	材料力学	①物体の引張・圧縮変形における応力とひずみ, ②はりの曲げにおける応力とたわみ, ③モールの応力円から出題する。
		櫻井 俊彰	機械力学	剛体における機構学を含む動力学および多質点ばね系の振動工学から出題する。
		杉町 敏之	機械力学	剛体における機構学を含む動力学および多質点ばね系の振動工学から出題する。
		西部 光一	流れ学	流体の物理的性質, 流体の静力学, 流体運動の基礎, 流体の測定法, 運動量の理論, 流体摩擦, 管路の流れ, 次元解析と相似則および物体まわりの流れから出題する。
		富士原 民雄	流れ学	流体の物理的性質, 流体の静力学, 流体運動の基礎, 流体の測定法, 運動量の理論, 流体摩擦, 管路の流れ, 次元解析と相似則および物体まわりの流れから出題する。
		伊東 明美	熱力学	温度と熱量, 熱力学第一法則, 熱力学第二法則, 理想気体およびガスサイクルから数問を出題する。
		崔 俊豪	熱力学	温度と熱量, 熱力学第一法則, 熱力学第二法則, 理想気体およびガスサイクルから数問を出題する。
		三原 雄司	熱力学	温度と熱量, 熱力学第一法則, 熱力学第二法則, 理想気体およびガスサイクルから数問を出題する。
		及川 昌訓	熱力学	温度と熱量, 熱力学第一法則, 熱力学第二法則, 理想気体およびガスサイクルから数問を出題する。
	機械システム工学	白木 尚人	機械材料学	材料の結晶構造と結合, 材料の強さと変形, 平衡状態図, 材料の製造と加工, 拡散と高温変形, 相変態と熱処理, 材料試験法, 破壊力学, 材料分析手法および機能性材料から出題する。
		藤間 卓也	機械材料学	材料の結晶構造と結合, 材料の強さと変形, 平衡状態図, 材料の製造と加工, 拡散と高温変形, 相変態と熱処理, 材料試験法, 破壊力学, 材料分析手法および機能性材料から出題する。
		丸山 恵史	機械材料学	材料の結晶構造と結合, 材料の強さと変形, 平衡状態図, 材料の製造と加工, 拡散と高温変形, 相変態と熱処理, 材料試験法, 破壊力学, 材料分析手法および機能性材料から出題する。
		亀山 雄高	表面加工学	生産加工学全般, 表面処理, 環境保全および廃棄物処理から出題する。
		佐藤 秀明	表面加工学	生産加工学全般, 表面処理, 環境保全および廃棄物処理から出題する。
		小玉 脩平	表面加工学	生産加工学全般, 表面処理, 環境保全および廃棄物処理から出題する。
		野中 謙一郎	制御工学	システムのステップ応答・周波数応答, ボード線図, 安定性, ブロック線図
		関口 和真	制御工学	システムのステップ応答・周波数応答, ボード線図, 安定性, ブロック線図
		宮坂 明宏	制御工学	システムのステップ応答・周波数応答, ボード線図, 安定性, ブロック線図
		秋田 貢一	材料力学	材料の引張・圧縮・ねじり・曲げにおける応力と変形, 組合せ応力(モールの応力円), 降伏条件(相当応力)
電気システム工学	熊谷 正芳	材料力学	材料の引張・圧縮・ねじり・曲げにおける応力と変形, 組合せ応力(モールの応力円), 降伏条件(相当応力)	
	田中 康寛	電気電子回路	直流回路(オームの法則、キルヒホッフの法則、重ね合わせの理、鳳-テブナンの定理)、交流回路(フェーザ表示、フェーザ図、複素数表示、インピーダンス、瞬時値、電力)、電子回路の基礎(ダイオード、トランジスタ、オペアンプ、ロジック回路)	
	三宅 弘晃	電気電子回路	直流回路(オームの法則、キルヒホッフの法則、重ね合わせの理、鳳-テブナンの定理)、交流回路(フェーザ表示、フェーザ図、複素数表示、インピーダンス、瞬時値、電力)、電子回路の基礎(ダイオード、トランジスタ、オペアンプ、ロジック回路)	
	土方 規実雄	電気電子回路	直流回路(オームの法則、キルヒホッフの法則、重ね合わせの理、鳳-テブナンの定理)、交流回路(フェーザ表示、フェーザ図、複素数表示、インピーダンス、瞬時値、電力)、電子回路の基礎(ダイオード、トランジスタ、オペアンプ、ロジック回路)	
	島野 健仁郎	熱・流体力学	熱力学分野:熱力学第一・第二法則, 状態変化, サイクル, エントロピー, エクセルギー 流体力学分野:静水圧平衡, 連続の式, ベルヌーイの式, 運動量保存の法則, 損失, 物体の受ける流体力	
	永野 秀明	熱・流体力学	熱力学分野:熱力学第一・第二法則, 状態変化, サイクル, エントロピー, エクセルギー 流体力学分野:静水圧平衡, 連続の式, ベルヌーイの式, 運動量保存の法則, 損失, 物体の受ける流体力	
	渡邊 力夫	熱・流体力学	熱力学分野:熱力学第一・第二法則, 状態変化, サイクル, エントロピー, エクセルギー 流体力学分野:静水圧平衡, 連続の式, ベルヌーイの式, 運動量保存の法則, 損失, 物体の受ける流体力	
	白鳥 英	熱・流体力学	熱力学分野:熱力学第一・第二法則, 状態変化, サイクル, エントロピー, エクセルギー 流体力学分野:静水圧平衡, 連続の式, ベルヌーイの式, 運動量保存の法則, 損失, 物体の受ける流体力	
	佐藤 大祐	機械力学・振動工学	平面閉ループ機構・マニピュレータ機構の運動学・動力学および1自由度・3自由度振動系動力学から出題する。	
	藪井 将太	機械力学・振動工学	平面閉ループ機構・マニピュレータ機構の運動学・動力学および1自由度・3自由度振動系動力学から出題する。	
電気電子工学	澤野 憲太郎	ナノエレクトロニクス工学	電子物理基礎や半導体デバイスに関する範囲から出題する。	
	野平 博司	ナノエレクトロニクス工学	電子物理基礎や半導体デバイスに関する範囲から出題する。	
	三谷 祐一郎	ナノエレクトロニクス工学	電子物理基礎や半導体デバイスに関する範囲から出題する。	
	石川 亮佑	ナノエレクトロニクス工学	電子物理基礎や半導体デバイスに関する範囲から出題する。	
	星 裕介	ナノエレクトロニクス工学	電子物理基礎や半導体デバイスに関する範囲から出題する。	
	鈴木 憲吏	電気機器工学	電気機器・パワーエレクトロニクスに関する基礎的な分野, および古典制御理論・現代制御理論に関する基礎的な分野から数問の出題問題を出题する。	
	鳥居 庸	電気機器工学	電気機器・パワーエレクトロニクスに関する基礎的な分野, および古典制御理論・現代制御理論に関する基礎的な分野から数問の出題問題を出题する。	
	天雨 徹	電力システム工学	電力システム工学の基礎用語, 基幹系統送電線の潮流計算, 再生可能エネルギー電源が接続された配電線の電圧計算, 再生可能エネルギー用系統連系インバータの基礎的な分野から数問の出題問題を出题する。	
	中島 達人	電力システム工学	電力システム工学の基礎用語, 基幹系統送電線の潮流計算, 再生可能エネルギー電源が接続された配電線の電圧計算, 再生可能エネルギー用系統連系インバータの基礎的な分野から数問の出題問題を出题する。	
	岩尾 徹	プラズマ応用工学	放電工学, プラズマ工学, 高電圧工学, 大電流工学, 発変電工学, 電子計測に関する基礎的な分野から数問の出題問題を出题する。	
医用工学	森 晃	臨床器械工学	「臨床医療技術」、「生活支援・福祉技術」の分野およびその周辺技術の分野に関する範囲から出題する。	
	和多田 雅哉	臨床器械工学	「臨床医療技術」、「生活支援・福祉技術」の分野およびその周辺技術の分野に関する範囲から出題する。	
	京相 雅樹	生体計測工学	「脳神経生理学」、「電気生理学」、「生体計測」、「電子回路」の分野から出題する。	
	桃沢 愛	医用材料工学	「バイオマテリアル」とその周辺の分野から出題する。	
	早坂 信哉	臨床医学研究概論	「臨床研究デザイン」「臨床医学研究のデータ解析法」「疫学」の分野から出題する。	
	横山 草介	臨床医学研究概論	「臨床研究デザイン」「臨床医学研究のデータ解析法」「疫学」の分野から出題する。	
	小林 千尋	細胞・組織工学1	「生化学」とその周辺分野から出題する。	
	坂口 勝久	細胞・組織工学2	「細胞生物学」、「再生医療」、「組織工学」とその周辺分野から出題する。	
	電気・化学	金澤 昭彦	高分子化学	高分子の構造・物性(一次構造、二次構造、高次構造、立体規則性、力学的性質、熱的性質、電気的性質、光学的性質)、高分子の合成(ラジカル重合、イオン重合、リビング重合、配位重合、開環重合)、高分子反応(分解反応、架橋反応、解重合)、高分子材料の機能性(フォトレジスト、導電性高分子、強誘電性高分子)
		黒岩 崇	バイオプロセス化学	生化学の基礎(糖質、タンパク質、脂質、核酸、生体膜の構造と性質)、生化学反応の基礎(酵素反応、遺伝情報の流れ、遺伝子組み換え技術)、バイオプロセスの構成と特徴、バイオリアクターの種類と操作、バイオリアクターの速度論(滅菌操作を含む)、バイオプロセスの応用
高橋 政志		界面化学	表面張力と界面現象、界面活性剤と分子集合体、吸着現象、固体表面の状態	
岩村 武		有機化学(A)	有機化合物の構造と結合、立体化学、次の化合物の性質と反応(飽和炭化水素、不飽和炭化水素、ハロゲン化アルキル、アルコール・フェノール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸とその誘導体、アミンとその誘導体)、分子間力、分子軌道、励起分子の化学	
江場 宏美		分析化学	化学平衡の計算、キレート錯体、重量分析法、容量分析法、電気化学的分析法、クロマトグラフ法、分光分析法、X線分析法	
高津 淑人		化学工学	物質収支、エネルギー収支、流動、伝熱、化学反応装置とその設計	
小林 亮太		無機化学	多電子原子の構造、共有結合とイオン結合、結晶構造と安定性、元素各論	
塩月 雅士		有機化学(B)	芳香族化合物を中心とする有機化合物の構造、物性および反応性(炭化水素、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸とその誘導体、アミンとその誘導体)、機器分析の原理および利用(化合物の同定、反応追跡)	
秀島 翔		電気化学	電解質溶液の性質、電池の起電力と電極電位、電極反応、一次電池、二次電池、燃料電池、電気化学キャパシタ、化学センサ、表面処理	
奥中 さゆり		触媒化学	触媒作用、触媒反応、不均一触媒、均一触媒、触媒プロセス(工業触媒、環境触媒、光触媒など)、触媒材料と調製法、吸着、触媒に関する反応速度式、触媒構造分析、触媒物性評価	

指導教員科目一覧【博士前期課程 一般選抜】

専攻	領域	指導教員	科目名	出題範囲
共同原子力	共同原子力	高木 直行	原子力システム工学	原子核反応、原子炉物理、原子力プラント工学に関する範囲
		西山 潤		
		河原林 順	放射線計測・放射線応用工学	放射線計測工学・加速器工学・放射線基礎に関する範囲
		羽倉 尚人		
		松浦 治明	廃炉・再処理・核燃料サイクル工学①	放射化学、核燃料サイクル、放射線廃棄物処分、核燃料工学、原子炉廃止措置に関する範囲
		佐藤 勇	廃炉・再処理・核燃料サイクル工学②	
		大島 靖樹	原子力耐震・構造工学	耐震工学、構造工学に関する範囲
		中村いづみ		
		鈴木 徹	原子力安全工学①	原子力安全、伝熱流動、確率論的リスク評価及びシビアアクシデントに関する範囲
		牟田 仁	原子力安全工学②	
自然科学	自然科学	飯島 正徳	高分子科学	高分子の立体構造、熱的性質、力学的性質に関する範囲
		須藤 誠一	溶液科学	水溶液の力学的、電磁気学的、光学的、熱力学的性質に関する範囲
		福田 達哉	進化生物学	生物の進化、遺伝、分類、生態に関する範囲
		吉田 真史	分析化学	化学物質の抽出、分離、機器分析に関する範囲
		田中 健太郎	生物地球化学	同位体地球化学、環境学、海洋化学に関する範囲
		津村 耕司	天文学	天文学と惑星科学に関する範囲
		中島 保寿	古生物学	古生物学、進化生物学、堆積学、層序学に関する範囲
		西村 太樹	原子核物理学	原子核、放射線、加速器に関する範囲
		服部 新	代数学・幾何学	集合と位相、群・環・体・加群に関する範囲
		田邊 顕一郎	代数学と組合せ論	線形代数学、微分積分学、集合論、群、環、体に関する範囲
		堀越 篤史	理論物理学 1	量子力学、統計力学に関する範囲
		長田 剛	理論物理学 2	解析力学、量子力学、相対性理論に関する範囲
		門多 顕司	宇宙科学	天文学と宇宙線に関する範囲
		糸井 充徳	物性物理学	量子力学、固体の統計力学的性質
		出未 光夫	実解析学・複素解析学	線形代数学、微分積分学、集合論、関数論に関する範囲
建築都市デザイン	建築学	手塚 貴晴	建築設計	優れた建築の特徴、成り立ち、理論に関する範囲
		福島 加津也		
		堀場 弘		
		中川 純	建築計画・建築史	建築計画(計画基礎、各種建築計画、都市計画)ならびに建築史(日本建築史、西洋建築史、近代建築史)
		片桐 悠自		
		原田 公明		
		大村 哲矢	建築構造	材料力学および不静定構造力学に関する範囲
		焦 瑜		
		小見 康夫		
		佐藤 幸恵	建築生産・材料	建築構法・建築材料・建築生産に関する範囲
		落合 陽		
		岩下 剛	建築環境設備	主に温熱環境・空気環境・光環境・視環境・空調設備・換気設備・衛生設備・照明設備に関する範囲
		小林 茂雄		
		白旗 弘美	構造安全工学	材料力学とはり、トラスおよびラーメンに関して、静定構造および不静定構造力学に関する範囲
		都市工学	都市工学	関屋 英彦
栗原 哲彦	災害軽減工学			各種力学に関する基本事項ならびに耐震工学等の災害軽減に関する範囲
珠玖 隆行				
末政 直晃	地盤環境工学			地盤工学(主に基本的性質、締固め、透水、圧縮、圧密、土のせん断、液状化、土圧、支持力、斜面崩壊)およびその周辺分野に関する範囲
伊藤 和也				
小野村 史徳	水文河川工学			水理学および水文河川工学に関する範囲
五艘 隆志	建設マネジメント			建設マネジメント(主にインフラマネジメント、プロジェクトマネジメント、調達問題、公共政策、建設市場、建設産業および建設企業、設計・施工技術に関するマネジメント)およびその周辺分野に関する範囲
秋山 祐樹				
稲垣 具志	都市計画・交通計画			都市計画、都市交通計画および交通工学に関する範囲
大屋 英稔	制御システム工学			古典制御理論と現代制御理論の基礎から出題する。
情報工学	情報工学	田口 亮	応用数理①	アナログ/デジタルシステム解析から出題する。
		新家 稔央	応用数理②	情報理論、符号理論から出題する。
		相原 研輔	応用数理③	数値解析・数理最適化から出題する。
		中野 秀洋	電子計算機工学	コンピュータシステム、コンピュータアーキテクチャ、およびその周辺の分野から数問の選択問題を出題する。
		兪 明連	計算機ソフトウェア	オペレーティングシステムの基本技術:CPUの仮想化(プロセス、スケジューリング、排他制御)およびメモリ管理(主記憶管理、2次記憶管理)から出題する。
		張 英夏	画像工学	「村上著、画像処理工学、東京電機大学出版局」および「向井著、基礎からのコンピュータグラフィックス、日新出版」から出題する。
		荒井 秀一	知識情報工学	パターン認識、自然言語処理、人工知能の分野から数問を出題する。
		岡野 好伸	通信システム工学①	電磁波理論、電波工学から出題する。
		林 正博	通信システム工学②	通信信頼性工学、信頼性に関するデータ処理、通信信頼性対策から出題する。
		平野 拓一	通信システム工学③	信号処理、無線回路の分野から出題する。
		傘 昊	集積化システム工学	回路理論、電子回路、集積回路工学の分野から数問を出題する。
		河合 孝純		
		高橋 弘毅	データサイエンス	機械学習、データベース、信号処理の分野から数問を出題する。
		山口 敦子		
		システム情報工学	システム情報工学	森 博彦
塩本 公平	ネットワーク情報工学①			TCP/IP技術を中心としたコンピュータネットワークに関する基本知識、および、通信ネットワークの技術とその応用に関する最近の動向と知識。
神野 健哉	ネットワーク情報工学②			機械学習、最適化理論、非線形力学系理論の基礎から出題する
田中 宏和	脳情報工学			神経科学と情報科学の融合分野である脳情報工学から、最適化理論や統計推定理論に基づく生物の数理モデル化に関する問題を出題する。 田中著「計算論的神経科学 - 脳の運動制御・感覚処理機構の理論的理解へ-」(森北出版)
桂 卓成	生体情報工学			生体計測、脳機能計測分野における計測方法、信号処理に関する問題を出題する
穴田 一	数理情報工学			機械学習、最適化理論、複雑系、数理モデルの基礎から出題する
ニーナ スヴィルドヴァ	非線形時系列解析の基礎			池口 徹、小室 元政、山田 泰司、カオス時系列解析の基礎と応用 合原 一幸(編集)、産業図書、2000

出願手続

1. 出願承諾確認

※別表「指導教員（予定）」参照

志願者は出願の前に志望する指導教員と必ず協議し、メールで出願承諾を受けてください。

※別表「指導教員（予定）」に○印、◎印または△印のある指導教員は、在学期間中に交代する可能性があります。

当該指導教員を志望する場合は、その後に研究指導を引き継ぐ予定の教員の承認も要します。

2. 検定料

35,000 円 入学検定料は検定料決済システムにより払い込んでください。払込期間は出願期間に準じます。検定料決済システムを利用すると、「@52school.com」ドメインからのメールが着信しますので、あらかじめ迷惑メールとしないよう、設定してください。

※入学検定料の納入の際には入学検定料の他にサービス利用料（990 円）がかかります。

URL <http://www.guide.52school.com/guidance/pay-tcu-g/>

3. 出願書類一覧

下表にて●が付されている書類を提出してください。課程・試験種別によって異なりますので注意してください。

※各種証明書は出願日から起算して、3ヶ月前以内に発行されたものに限ります。

	課程		所定 用紙	出願書類	注 意 事 項
	博士前期	博士後期			
1	●	●	A 票	入学志願票	志望する専攻名を記載し、事前にメールで志望する指導教員の出願承諾を受けてください。
1'	●	●	-	出願承諾確認メール	志望する指導教員から出願承諾を受けたことが分かるメールを A4 サイズで印刷し、同封してください。
2	●	●	B 票	入学検定料	35,000 円 入学検定料は検定料決済システムにより払い込み、システムから出力した収納証明書を B 票に貼り付けてください。なお、払込期間は出願期間に準じます。期間外は納入できません。 URL http://www.guide.52school.com/guidance/pay-tcu-g/
3	●	●		副票（写真票）	出願前 3 ヶ月以内に撮影した上半身正面脱帽（たて 4 cm × よこ 3 cm）のものを B 票の所定欄に貼付してください。
4	●	●	C 票	志望理由書	志望理由を具体的に記載してください（様式におさまる範囲で作成すること）。
5	●	●	-	成績証明書	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 博士前期課程 志願者 大学学部の「成績証明書」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 博士後期課程 志願者 大学学部の「成績証明書」および 大学院修士課程または博士前期課程の「成績証明書」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・転学・編入学をした場合は、転学・編入学前のものも提出してください。 ・高等専門学校を卒業者は、当該機関に在籍時の成績証明書を提出してください。 ・外国人留学生は、「4. 外国人留学生の注意事項」も参照してください。 ・「本学と交流協定を締結している海外大学を卒業（修了）した」ことが条件となる授業料減免を希望する方は、GPA 値が記載された成績証明書を提出してください。
6	●	●	-	卒業証明書・ 卒業見込証明書	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 博士前期課程 志願者 大学学部の「卒業証明書（卒業・学位取得証明書）」 または「卒業見込証明書」 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> 博士後期課程 志願者 大学院修士課程または博士前期課程の「修了証明書」 または「修了見込証明書」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・外国人留学生は、「4. 外国人留学生の注意事項」も参照してください。

出願手続

	課程		所定 用紙	出願書類	注 意 事 項
	博士前期	博士後期			
7	● [社会人選抜] 志願者対象	● [社会人選抜] 志願者対象	D 票	業務経歴書	D票（本人記入）E票（本人を熟知する者記入）のうち、 どちらかを提出 して下さい。※E票は厳封して提出 また、所定用紙の各項目を含んでいれば任意様式による提出でも可とします。 本学教職員をE票における推薦者とはできません。 *減免制度を希望される方は、「希望する」の口欄にレ点を入れて下さい。
8	● [社会人選抜] 志願者対象	● [社会人選抜] 志願者対象	E 票	推薦書	
9	● [海外協定校 特別推薦入試] 志願者対象	● [海外協定校 特別推薦入試] 志願者対象	F 票	海外協定校特別推薦 入試における推薦書	出願者が所属する学科等の主任教授等、及び在籍大学又は大学院の学長に相当する者の連名の推薦書が必要です。
10	—	●	G 票	博士前期課程等における研究概要と博士後期課程における研究計画	* 社会人選抜志願者の博士前期課程等における研究概要欄は、直近の研究概要を記載しても構いません。
11	● 外国人留学生 対象	● 外国人留学生 対象	H 票	外国人留学生 状況調査票	国籍や在留資格等の確認のためにおよび在留カード両面のコピーを添付すること。 ※日本国外に在住の場合、在留カードのコピーは提出不要
11 ⁺	● 外国人留学生 の志願者	● 外国人留学生 の志願者	—	パスポート 必要ページのコピー	氏名・顔写真・サイン等が記載されたページのコピーを提出してください。
11 ⁺	△ 外国人留学生 の志願者	△ 外国人留学生 の志願者	—	在留カード両面の コピー	<u>日本国内在住の外国人留学生は必ず提出してください。</u> 在留カード両面のコピーを提出してください。 日本国外在住の外国人留学生は提出不要です。
12	●	●	I 票	宛名ラベル	「合格通知書」など受験関係書類の送付先宛名を明記すること。
13	● [留学生特別選抜] 志願者対象	—	J 票	留学生特別選抜 適用申請書	留学生特別選抜の適用を申請する場合には、原則として出願の1ヶ月前に、志望する専攻の指導教員に申請の上、出願時に提出できるよう手配してください。
14	● 対象者のみ	—	—	TOEIC 公式認定証 認定試験合格証明書 基準達成証明書	外国語科目の受験免除を希望する方は提出してください。 (コピー不可)。 <以下を参照のこと> 「6. TOEIC試験による外国語（英語）の科目試験免除について」 「7. 本学認定試験等による外国語（英語）の科目試験免除について」
15	● 中国の大学を 卒業した志願者	● 中国の大学を 卒業した志願者	—	学歴認証書	CHSI が発行する認証書を提出してください。 電子版の証明書を提出する場合は、CSSD(旧称 CHESICC)から本学教学部 教学課宛に直接送付されたもののみを有効とします。 詳細は「4. 外国人留学生の注意事項」を参照してください。
16	● 中国の大学を 卒業した志願者	● 中国の大学を 卒業した志願者	—	成績認証書	CHSI が発行する認証書を提出してください。 電子版の証明書を提出する場合は、CSSD(旧称 CHESICC)から本学教学部 教学課宛に直接送付されたもののみを有効とします。 詳細は「4. 外国人留学生の注意事項」を参照してください。
17	—	● 中国の大学を 卒業した志願者	—	学位認証書	(博士後期課程のみ) CHSI が発行する認証書を提出してください。 電子版の証明書を提出する場合は、CSSD(旧称 CHESICC)から本学教学部 教学課宛に直接送付されたもののみを有効とします。 詳細は「4. 外国人留学生の注意事項」を参照してください。

出願手続

4. 外国人留学生の注意事項

日本国外の大学を修了（見込）・卒業（見込）見込の方は必ず読んでください。

出願書類：5	成績証明書
出願書類：6	卒業証明書・卒業見込証明書

に関する注意点です。

4-1. 全外国人留学生 志願者 共通事項

1. 自国の最終出身校が発行した「成績証明書」「卒業（修了）証明書」を必ず提出してください。証明書は、必ず学校の公印が押されたものを提出してください。証明書が複数ページある場合は、すべてのページに公印が必要です。
2. 「成績証明書」「卒業（修了）証明書」は、原本または certified true copy（原本から正しく複製されたものであることを卒業（修了）した学校や大使館等公的機関によって証明されたコピー）を提出してください。
3. 日本語・英語以外で記載されている場合には、日本語または英語の訳文をつけてください。訳文は大使館などの公的機関で、原本の意味と相違がない旨の証明を受けてください。
4. 「卒業（修了）証明書」のほかに、「卒業（修了）証書（Diploma）」のコピーも可能な限り提出してください。
5. 証明書の氏名・生年月日等がパスポートの記載と異なる場合は、大使館等の公的機関で同一人物であることの証明を受けてください。
6. 証明書は、出願日から起算して3ヶ月前以内に発行されたものを提出してください。
但し、原本が1部しかない場合はこの限りではありませんので、事情を説明するメモを同封してください。
7. 入学までに留学ビザ等（ただし短期滞在ビザは不可。）を取得し、入学後（2024年9月以降）は本学に登学できることが出願の前提です。日本の在留資格を有していない者は、新規での査証申請が必要となるため入国が遅れる恐れがありますので、余裕をもって準備を進めてください。
8. 本学の学部・博士前期課程・博士後期課程出身者は当該課程についての「成績証明書」「卒業（修了）証明書」は提出不要ですが、本学で学修していない課程についての「成績証明書」「卒業（修了）証明書」は提出してください。

4-2. 「本学と交流協定を締結している海外大学を卒業した」ことが条件となる授業料減免を希望する方

授業料減免制度のうち、本学の海外協定校卒業（見込）または修了（見込）が選考条件となる減免を希望する場合の「3. 出願書類一覧、5. 成績証明書」は、最終GPA値（見込の者は直近のGPA値）が記載されたものを提出してください。

GPA値の記載がない成績証明書が提出された場合、私費外国人留学生授業料減免において必要な審査ができないため、希望する減免が受けられない場合があります。

この場合、「本学と交流協定を締結している海外大学を卒業した」ことが選考条件となる減免は希望しないものとして取り扱いいます。

（参考）私費外国人留学生授業料減免（本学独自）

対 象	学費減免率	備 考
次の全てを満たす者 (ア) 本学と交流協定を締結している海外大学を卒業した者又は卒業見込みの者 (イ) 本学大学院入試出願時の GPA 値が 3.0 以上の者	授業料年額の 75%	学内国際委員会が選考し学長が決定する。
次の全てを満たす者 (ア) 本学と交流協定を締結している海外大学を卒業した者又は卒業見込みの者 (イ) 本学大学院入試出願時の GPA 値が 2.5 以上 3.0 未満の者	授業料年額の 50%	
上記以外の私費外国人留学生	授業料年額の 30%	

出願手続

4-3. 中華人民共和国内の大学または大学院を卒業（見込）・修了（見込）の方

博士前期課程志願者：1～4（大学学部のもの）を提出してください。

博士後期課程志願者：1～6（大学学部のものおよび博士前期（修士）課程のもの）を提出してください。

「学歴認証書」・「成績認証書」・「学位認証書」は**申請から発行まで3か月程度かかる場合があります**ので、早めに手続きをしてください。**出願期間内に上記の書類が提出されていない場合は、出願を受理しないことがあります。**
なお出願時に同封する必要がありますので、出願前に準備が完了するようにしてください。書類を追送する前提での出願は受理できません。

■学歴認証書・成績認証書・学位認証書について

学歴認証書、成績認証書、学位認証書はCHSI 中国高等教育学生信息网（<https://www.chsi.com.cn/en/pvr>）が取り扱っています。

日本国内ではCHSI 日本代理機構（<http://www.chsi.jp>）での発行申請が可能です。

電子データの認証書を提出する場合は、出願期間内にCSSD（教育部学生服务与素质发展中心）（旧称：(CHESICC)全国高等学校学生信息咨询与就业指导中心）から本学教学部 教学課（sckyoumu@tcu.ac.jp）へ、電子メールで直送されるよう手配してください。志願者等による電子メールの転送は出願書類として認められません。

出願期間を過ぎた場合は出願を受理しない場合があります。手続きの詳細は各自で確認してください。

博士前期 博士後期 共通	1	「卒業(修了)証明書 (Certificate of Graduation)」の原本または certified true copy 卒業した大学が発行し、18桁の番号が記載されているもの
	2	「学歴認証書」(Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate) CHSI（中国高等教育学生信息网）が発行し、英文で記載されたもの。 ※Online Verification Report of China Higher Education Qualification Certificate を提出する場合は、下記の注意をよく読んで手続きをしてください。
	3	「成績証明書 (Transcript of Results)」の原本または certified true copy 卒業した大学が発行したもの。編入等した場合には編入等前の成績も提出してください。
	4	「成績認証書」(Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript) CHSI（中国高等教育学生信息网）が発行し、英文で記載されたもの。 ※Online Verification Report of China Higher Education Student's Academic Transcript を提出する場合は、下記の注意をよく読んで手続きをしてください。
博士後期のみ	5	「学位証明書 (Certificate of Degree)」の原本または certified true copy 16桁の番号が記載されているもの。
	6	「学位認証書」(Verification Report of Higher Education Degree Certificate) CHSI（中国高等教育学生信息网）が発行し、英文で記載されたもの。 ※Online Verification Report of Higher Education Degree Certificate を提出する場合は、下記の注意をよく読んで手続きをしてください。

出願手続

5. 出願に関する注意事項

(1) 入学検定料の納入について

入学検定料は右記のサイト(<http://www.guide.52school.com/guidance/pay-tcu-g/>)にアクセスし、出願登録後、最寄りのコンビニエンスストア (セブン-イレブン・ローソン・ファミリーマート・ミニストップ・デイリーヤマザキ・セイコーマート)、ペイジー (「Pay-easy」マークのある全国のゆうちょ銀行や各銀行等のATM) または、クレジットカードで納入してください。

入学検定料の納入の際には入学検定料の他にサービス利用料 (990 円) が掛かります。

検定料決済システムを利用すると、「@52school.com」ドメインからのメールが送信されます。あらかじめ迷惑メールとしないよう、設定してください。

検定料の納入は、出願期間中のみ可能です。出願期間前・出願期間後には納入ができません。

※金融機関の窓口での取り扱いは行いません。また、領収書の発行はいたしません。

※一旦納入した入学検定料は、理由にかかわらず返還しませんので、充分注意してください。

※家族や知人が代理で手続きをする場合も、必ず志願者本人の情報を入力してください。

(2) 受験及び修学に際して特別な配慮を必要とする場合

身体の障がい等により、受験及び修学に際して特別な配慮を必要とする場合は、出願する 2 週間前までに 教学部 教学課までその旨を連絡してください。

(3) 原本が 1 部しかない場合

海外の大学出身者で、提出書類の原本が一部しかない場合でも、必ず原本の確認をしますので、その場合には出願する前に 教学部 教学課へ申し出てください。

一度提出された書類は原則として返却しませんが、返却を希望する学生は出願する前に相談してください。

(4) 出願できる専攻・指導教員について

出願できるのは、1つの日程につき 1 専攻 (1 領域) かつ 1 名の指導教員に対してのみとします。

1つの日程における出願で複数の専攻 (領域) への出願や、複数の指導教員に対して出願することはできません。

(5) 日本の在留資格を有していない場合

入学までに留学ビザ等 (ただし短期滞在ビザは不可。) を取得し、入学後 (2024 年 9 月以降) は本学に登学できることが出願の前提となります。日本の在留資格を有していない者は、新規での査証申請が必要となるため、入国が遅れる恐れがあります。時間に余裕を持って準備を進めてください。

(6) 出願について不明な点がある場合

その他不明な点がある場合は、教学部 教学課 大学院入試 担当に問い合わせてください。

メール : sckyyoumu@tcu.ac.jp

6. TOEIC 試験による外国語 (英語) の科目試験免除について 博士前期課程のみ

TOEIC テスト [公開テスト、IP テスト (団体特別受験制度) のいずれでも可] で本学大学院の定める基準以上のスコアを有している者は、「英語」の科目試験の受験を免除する場合があります。基準点については、必ず出願前に 教学部 教学課にお問い合わせください。ただし、入学試験実施時の前々年度の 4 月 1 日以降のスコアのみを有効とします。

書類の不備等により免除が認められない場合、受験票の発信までに別途連絡します。

※オンラインで受験した際のスコア表は受理されませんので注意してください。

公開テスト

(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会が、年 10 回 (1・3・4・5・6・7・9・10・11・12 月) 全国 80 都市で実施する試験のことを指します。申し込みは、インターネットもしくはコンビニエンスストアにて行っています。詳細は、下記 TOEIC 運営委員会の Web ページを参照してください。

IP テスト

団体特別受験制度 (IP: Institutional Program)

主催者は、上記と同じで、団体 (企業・学校など) で法人格のあるものが、所属者を対象に、実施する試験 (10 名以上の一括受験に限る) のことを指します。また、テスト結果の有効性は通常公開テストと同等であると判断されます。

なお本学では各キャンパスで年に数回実施しています。実施や申込み方法等の詳細については、別途掲示にてお知らせしますので、各自確認してください。

TOEIC 試験の受験についての問合せ先

(一財)国際ビジネスコミュニケーション協会 IIBC 試験運営センター

〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グラウンドビル

TEL : 03-5521-6033 (土・日・祝日を除く 10:00~17:00)

FAX : 03-3581-4783 URL : <http://www.toeic.or.jp>

出願手続

7. 本学認定試験等による外国語（英語）の科目試験免除について

(1) 科目認定試験等

本学の各学部の在学学生、研究生、卒業生で、「科目認定試験」や「出願資格取得のための認定試験」を受験し、合格点に達した者には、「認定試験合格証明書」を交付します。有効期限内の「認定試験合格証明書」を大学院総合理工学研究科一般入試 一般選抜の際に出願書類として提出することにより、外国語科目(英語)の受験を免除する場合があります。

(2) 基準達成証明書

過去に大学院総合理工学研究科一般入試 一般選抜を受験し「基準達成証明書」を交付されている者で、有効期限内の「基準達成証明書」を出願書類として提出した者については、外国語科目(英語)の受験を免除する場合があります。

(3) 基礎科目認定試験

過去に基礎科目(数学・物理・化学)において「認定試験合格証明書」を交付された者は、出願時に提出することにより面接試験時に考慮される場合があります。

なお、書類の不備等により免除が認められない場合、受験票の発信までに別途連絡します。

8. 出願期間および宛先 **郵送のみ**

日程名称	2月実施入試	5月実施入試	6月実施入試
窓口	窓口での受付はありません(郵送のみ)		
受付期間	2024年1月12日(金) ～1月18日(木)(必着)	2024年5月2日(木) ～5月6日(月)(必着)	2024年5月17日(金) ～5月23日(木)(必着)
宛先	〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1 学校法人五島育英会 東京都市大学 大学教学部門 教学部 教学課 大学院入試 担当 ※原則としてレターパックプラス(520円・赤色)で郵送すること(レターパックライトは不可)。		

9. 出願書類の到達確認・受理について

出願書類の到達確認は、レターパックプラスの追跡番号により行ってください。

書類に不備がある場合は出願を受け付けませんので、よく確認の上、出願してください。
到達確認・個別の受理確認の問い合わせには対応いたしかねますので、ご遠慮ください。

10. 受験票について

受験票のデータを電子メールでお送りします。各自でA4用紙に印刷し、試験当日に持参してください。

試験時間中にはスマートフォン等は電源を切ることとなりますので、必ず印刷をしてください。

試験日の3日前になっても通知がない場合は教学部 教学課 大学院入試担当に問い合わせてください。

メール: sckyomu@tcu.ac.jp

11. 志願者の個人情報の取扱いについて

手続書類を通じて収集した住所・氏名等の個人情報は、大学からの連絡・資料等の発送や統計的集計に利用いたします。それらの業務を超えた利用はありません。また、個人情報は、厳重に管理いたします。

受験上の注意事項

1. 受験上の注意事項

(1) 試験開始時刻について

志願者は、試験日時および試験科目を確認してください。一部専攻は別の日時を指示されている場合があります。

(2) 試験室について

試験当日、学内掲示等で各自確認してください。

(3) 受験上の注意

- ① 試験開始15分前までには必ず試験室に入室して自分の受験番号の席に着き、受験票を机の上に置いて試験監督者の指示を待ってください。
- ② 試験開始後20分以上の遅刻入室はできません。やむを得ない事情で20分以上遅刻する場合は教学部 教学課に申し出てください。
- ③ 試験科目は「入学志願票」の通りとし、試験科目の変更は認めません。
- ④ 筆記用具は黒鉛筆（シャープペン）、消しゴム、定規、コンパス、鉛筆削りのほか事前に指示のあったもののみとします（上記に加え、博士前期課程 一般選抜の専門科目は各自が用意する関数電卓の使用を認めます）。
- ⑤ 携帯電話等の電子機器類は試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。試験時間中に、これらをかばん等にしまわず、身に付けたり手に持っているとは不正行為とみなすことがあります。
- ⑥ 全ての問題用紙、解答用紙および計算用紙には、受験番号のみ記入し、氏名は記入しないでください。
- ⑦ 試験室内での飲食は禁止します。
- ⑧ 大学からの指示等に従わない時は、不正行為とみなす場合があります、厳正に対応します。

(4) 面接試験について

- ① 面接試験開始時刻の15分前には、面接控室に入室してください。集合時刻に遅刻した者は欠席扱いとし、受験を認めません。
公共交通機関の遅延で間に合わない場合は、必ず教学部 教学課 大学院入試担当まで連絡を入れてください。
- ② 面接控室から面接室へは、担当者の指示に従って移動します。面接試験を終えた者は、面接控室へは戻れません。
- ③ 志願者数によっては面接控室での待機時間が長くなる場合があります。この際、読書は認めますが、私語や飲食、他の受験生に迷惑となる行為は禁じます。また、携帯電話やスマートフォン、パソコンなどの電子機器の利用も禁じます。これらに違反した場合には、不正行為とみなしますのでご注意ください。

(5) その他

- ① 国外からの志願者等について別の指示をすることがあります。
- ② 別途指示の上、WEB等を利用して試験を実施する場合があります。

指示があった場合に備え、あらかじめ以下の環境を整えておいてください。

- ・ コンピューターを所持し、自身が受験する期日・時間帯に動画・音声の送信・受信を行えるインターネット環境と、試験の回答、面接ができるような静かな環境・設備（webカメラ・イヤホン・マイク等）を用意すること。
- ・ Microsoft Office(Word, Excel など)で作成されたファイルを開き、編集できること
- ・ Adobe pdf で作成されたファイルを開くことができること
- ・ Microsoft Office(Word, Excel など)や Adobe pdf で作成されたファイルを、自由に印刷できること
- ・ 自身が作成した答案を文字・図表が鮮明な状態で保存・撮影し、送信できること（スマホ等の使用可）

受験上の注意事項

2. その他の注意事項

(1) 試験日当日に不測の事態が生じた場合について

状況に応じて別途措置を講ずる場合は、以下のウェブページに掲載するので、各自で確認してください。

<https://www.asc.tcu.ac.jp/>

(2) 学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に罹患した場合について

試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症に罹患し治癒していない者は、他の受験生や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。ただし、病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるときは、この限りではありません。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験などの措置、入学検定料の返還は行いません。

3. 過去問題の閲覧について

過去問題は、学内のネットワークを通じて以下のホームページで閲覧出来ます。

本学在学学生が、学外から閲覧する場合は VPN 接続が必要となりますので、情報基盤センターのホームページを参照し設定を行ってください。

学外の方は、閲覧出来ませんので、指導教員を明らかにした上で、直接世田谷キャンパスの教学部 教学課にお問い合わせください。

過去問題の閲覧

東京都市大学 <http://www.tcu.ac.jp/> ホーム > 在学生の方へ > 世田谷キャンパスサイト > 関連組織・研究所 > 図書館 > WEB 利用サービス > 大学院総合理工学研究科入試問題

本学では5～10月の期間、節電の必要性及び地球温暖化防止対策と省エネルギーの一環として、室内のエアコンの設定温度を控えめにし、ノーネクタイで執務しています。この期間に実施する入試については、教職員・受験生とも「ノーネクタイ・ノー上着」で実施することとしますので、ご理解ご協力をお願いします。

合格発表・入学手続 等

1. 合格発表・手続期限

	2月実施入試	5月実施入試	6月実施入試
合格発表	3月1日(金) 10:00	5月20日(月) 10:00	6月28日(金) 10:00
手続期限	3月29日(金) 消印有効	6月7日(金) 消印有効	7月26日(金) 消印有効

本学内に合格者の受験番号を掲示するとともに、本人に合格通知書および入学手続書類を速達で郵送します。上記に加え本学 Web ページに合否結果を掲出する場合があります。この場合、志願者には別途メール等で詳細を通知します。

2. 入学手続 納入金

- (1) 合格者は、本学入学のためには、期限内に入学手続書類を提出し、入学手続金を納入しなければなりません。
- (2) 入学手続の期限は上表の通りです。
ただし5月実施入試と6月実施入試のみ、やむを得ぬ理由がある場合、入学金を除く納入金については別途手続書類を提出した場合にかぎり、最長2024年8月20日(火)まで納入延期を認めます。
手続方法については、合格者に発送する「入学手続要項」に記載します。
- (3) 入学手続書類の提出と入学手続金の納入はすべて郵送・振込によるものとします。大学の窓口における取り扱いは行いませんので注意して下さい。詳細は合格通知の際に同封する「入学手続要項」を参照してください。
- (4) 納入金について(参考:2024年度入学者 納入金)

区分 納入金	入学手続時 (後学期分)	次年度以降納入金額	
		2年目以降	修了予定年度(前学期分)
入 学 金	240,000	—	—
授 業 料	530,000	1,060,000 分納の場合 前学期 530,000 後学期 530,000	530,000
合 計	770,000	1,060,000	530,000

- a) 2年次以降の授業料は、当該年度の始めに改めて通知します。
- b) 本学からの進学者(2024年9月 本学卒業見込者及び修了見込者)は「東京都市大学大学院研究科奨学規程」に基づき入学金 240,000 円が免除されます。また授業料についても、同規程の適用により免除されることがあります。
- c) いったん納入した入学金および授業料は、返還しませんので充分ご注意下さい。
ただし、授業料については指定された期間内に入学辞退を行った場合に限り返還することがあります。
上記納入金については、予定金額であり変更となる場合があります。詳細は入学手続要項を確認してください。

(5) 入学辞退について

入学手続完了後にやむを得ぬ理由により入学辞退を希望し、原則として2024年9月20日(金) 17:00までに入学辞退を申し出た場合は、入学金を除く納入金は返還します。詳細は合格通知の際に同封する「大学院入学手続要項」を参照してください。

3. 減免制度申請のための手続

- (1) 私費外国人留学生（在留資格「留学」を有する者、または取得見込みの者）に対し、特別な経済的支援として授業料減免措置の実施をする場合があります。減免措置を希望する場合は入学手続時および入学後に、所定の手続きを行ってください。なお、初年度の減免措置は前学期分の授業料にて行います。減免措置を希望する場合であっても後学期分の金額を過不足なく納入し、入学手続を行ってください。
- (2) 社会人選抜により入学した者については、博士前期課程で50%、博士後期課程で90%の授業料が減免される場合があります。減免措置を希望する場合は出願時にD票またはE票の所定の欄にその旨を記載してください。
- (3) 海外協定校特別推薦入試により入学した者のうち一定の条件を満たす者に対し、経済的負担を軽減し、優秀な人材の育成を目的として授業料減免措置を実施する場合があります。減免措置を希望する場合は入学後、所定の手続きを行ってください。なお、初年度の減免措置は入学した後の減免審議確定後に行います。減免措置を希望する場合であっても上記の分割納入の金額にて入学手続を行ってください。

4. 研究助手制度について

博士後期課程の学生を対象とした研究助手の制度（定員あり）があります。研究助手は、指導教員の指示に従い、研究及び教育の補助を行うもので、月手当金が支給されます。

合格発表・入学手続 等

5. 奨学金制度

- 本学からの進学者（2024年9月 本学卒業見込者及び修了見込者）の入学金は全員免除されます。
- 博士後期課程及び博士前期課程については、学力・人物ともに優秀な学生に学費の免除を行う奨学制度があります（下表①参照）。この奨学生の選考に当たっては、本学からの進学者が選考対象となります。
他に下表②～⑥のような授業料減免、給費奨学制度があります。
- 貸与奨学金の代表例として、日本学生支援機構奨学金があり、無利子貸与（第一種奨学金）と有利子貸与（第二種奨学金）の二種類があります。

① 大学院奨学生（本学独自）

課程	学年	学費免除額	備考
博士後期	D5	全額免除または半額免除	内部進学者のみ。
	D4		
	D3		
博士前期	M2		
	M1		

② 社会人選抜入学者授業料減免（本学独自）

課程	学年	学費免除額	備考
博士後期	D5	授業料年額の90%	社会人選抜入学者且つ減免希望者のみ。
	D4		
	D3		
博士前期	M2	授業料年額の50%	
	M1		

③ 私費外国人留学生授業料減免（本学独自）

対象	学費免除額	備考
次の全てを満たす者 (ア) 本学と交流協定を締結している海外大学を卒業した者 (イ) 協定大学在籍時の最終 GPA 値が 3.0 以上の者 (ウ) 本学大学院に在籍する者	授業料年額の 75%	学内国際委員会が選考し学長が決定する。
次の全てを満たす者 (ア) 本学と交流協定を締結している海外大学を卒業した者 (イ) 協定大学在籍時の最終 GPA 値が 2.5 以上 3.0 未満の者 (ウ) 本学大学院に在籍する者	授業料年額の 50%	
学部又は大学院に在籍する者	授業料年額の 30%	

④ 今泉奨学金（本学独自）

課程	学年	給費額	備考
博士後期	D5	50万円を上限とする ※1	専攻指定あり 内部進学者のみ（大学院奨学生を除く） ※1 学内専攻主任会議にて選考し研究科長が決定する。
	D4		
	D3		
博士前期	M2		
	M1		

⑤ 佐野利秋国際交流奨学金（本学独自）

課程	学年	給費額	備考
博士後期 博士前期 (留学生)	全学年	授業料年額の50%を上限とする ※2	学業、人物ともに優秀なアジア地域からの私費外国人留学生。(ただし、建築都市デザイン専攻に在籍する者を最優先とする。) ※2 学内専攻主任会議が選考し学長が決定する。

⑥ 各種奨学生（以下は給費奨学金実績の一部）

団体名称	支給月額/年額	条件
(公財)日揮・実吉奨学会	400,000円 (2023年度年額)	理工系所属の学生で、人物・学力ともに優れ、かつ、健康であって、経済的に本会の奨学金の給与が必要であると認められること。原則として年齢30歳未満であること。
(公財)ロータリー米山記念奨学金	140,000円 (月額)	45歳未満の者で学業優秀の他、異文化理解、コミュニケーション能力に対する姿勢や関心を持ち、心身ともに留学生活に耐えうる健全な者
(一財)守谷育英会	120,000円 (月額)	東京都内の大学に在学また東京都内に居住で学業・人物とも優秀であって、学資の支弁が困難な者

6. 課程を修了するために必要な修得単位数

博士前期課程

実習	4 単位	※1
特別研究	8 単位	
小 計	12 単位	※2
授業科目	18 単位以上	※3
合 計	30 単位以上	

※共同原子力専攻の場合は、※1 演習：2 単位、※2：10 単位、※3：20 単位

博士後期課程

講究	8 単位
研究	16 単位
合 計	24 単位

7. 入学試験結果の情報開示について

本学で実施する大学院一般入試の結果について、受験生の個人情報に限定して、受験生本人に開示することとします。開示を希望する受験生は、以下に定める請求手続を行ってください。入学試験結果を受領する方法は2通りあり「a. 本学窓口にて受領する方法」と「b. 郵送により受領する方法」があります。試験結果を受領する方法は請求手続きにより異なりますので下記(3)②ウ)によりご確認ください。

- (1) 個人情報の開示対象者 本学で実施する大学院一般入試を受験し不合格となった受験生本人を対象とする。
- (2) 請求手続きにより本人に開示する個人情報 受験した試験科目がある場合その得点、面接の結果。
- (3) 個人情報の請求方法

①請求期間 2024年9月21日～9月30日(消印有効)

②請求手続き 以下の書類を同封の上、簡易書留にて、本学教学部 教学課宛に送付してください。

ア) 次の事項を記載した「入学試験結果開示申請書(様式自由)」

受験番号(複数の場合は連記してください)、氏名、生年月日、出身大学名、連絡先(住所及び電話番号)

イ) 本学発行の受験票のコピー

複数の入学試験結果を請求する場合は、該当する入試方式の受験票のコピー(A4用紙)を同封してください。

ウ) a. 本学窓口での受領希望者

「郵便はがき」1枚……請求者の住所、氏名を宛名書きしたもの。請求手続き完了者に受領日程をお知らせするための通知と「入試結果受領書」を兼ねる「郵便はがき」です。私製はがきの場合は85円の郵便切手を貼ったものを同封してください。住所(郵便番号含む)、氏名は必ず記載してください。

b. 郵送による受領希望者(郵送料510円)

「A4サイズ封筒」1枚……請求者の住所、氏名を宛名書きし、510円分の切手を貼付したもの。請求手続き完了者に入学試験結果を郵送するための「封筒」です。A4サイズの封筒に住所(郵便番号含む)、氏名を宛名書きし、切手を貼り2つ折りにして同封してください。

※「b. 郵送により受領する方法」を推奨します。

- (4) 個人情報の受領方法

①受領期間 2024年11月1日～11月30日(日曜、祝祭日は除く)

本学窓口での受領を希望する請求手続完了者には、上記期間内の受領予定日を、前記(3)②ウ) a. の「郵便はがき」でお知らせいたします。また、郵送による受領希望者には、前記(3)②ウ) b. の「A4サイズ封筒」にて郵送いたします(上記受領期間内に郵送します)。

- ② 受領場所 本学教学部 教学課(世田谷キャンパス)。原則として本人へ手渡します。

③窓口での受領の際に必要なもの・・・該当する入試方式の「受験票」と本人であることを証明できるもの(学生証、健康保険証等)

タマサート大学との博士後期課程ダブル・ディグリープログラムについて

以下の通り、東京都市大学の博士後期課程とタマサート大学の博士後期課程のダブルディグリープログラム参加者を募集します。

※対象は博士後期課程志願者となります。

1. プログラム名称

東京都市大学とタマサート大学との博士後期課程ダブル・ディグリープログラム

2. ダブル・ディグリープログラムの概要

本プログラムは、東京都市大学大学院（TCU）とタマサート大学（タイ王国）シリントーン国際工学院（SIIT）で2つの学位が取得できるプログラムです。参加学生の方は、双方の博士後期課程の学生として在籍し、双方の指導教員の指導を受け、それぞれの博士の学位の取得を目指します。

取得できる学位

大学	学位
東京都市大学	博士（工学）
	博士（理学）
	博士（環境情報学）
	博士（都市生活学）
	博士（学術）
タマサート大学	博士（工学技術）

3. 標準的スケジュール

本プログラムの参加学生の方は、修学の途中で日本→タイのキャンパスの移動を行います。双方の課程の修了に要する年数は、4年間です。

入学前後から終了までの標準的なスケジュールは以下の通りです。

スケジュール	滞在場所
2024年2月	入学試験（TCU） 日本
2024年6月	入学試験（SIIT）
2024年8月	入学（SIIT）
2024年9月	入学（TCU）
2025年9月	SIITへ移動 タイ
2027年9月	TCUへ移動 日本
2028年4月	学位論文等の提出（TCU）
2028年8月	学位論文等の提出（SIIT）
2028年9月	学位授与（SIIT）
2028年9月	学位授与（TCU）

タマサート大学との博士後期課程ダブル・ディグリープログラムについて

4. 納付金

東京都市大学大学院博士前期課程を修了した学生は、東京都市大学へ授業料（4年間）等を納付する必要がありますが、タマサート大学への授業料等是不徴収と同等の扱いとなります。

タマサート大学大学院博士前期課程を修了した学生は、タマサート大学へ授業料（4年間）等を納付する必要がありますが、東京都市大学への授業料等是不徴収と同等の扱いとなります。

5. 募集人員

若干名

6. 注意事項

1. 本プログラムを志望される方は、志望する研究科に応じて、現在の指導教員と研究科長に必ず事前にご相談ください。相談するためには、博士前期課程のGPAが3.0以上であることが条件となります。

総合理工学研究科 末政 直晃 研究科長 nsuemasa@tcu.ac.jp

2. 本プログラムで使用する言語は、日本語または英語です。
3. 本プログラムを志願する方は、一般試験または推薦試験を受験してください。
4. 本プログラムに参加するためには、両大学の入学試験に合格する必要があります。
5. 本プログラムを志願する方は、出願前に学修計画及び研究計画などを定める必要があります。詳細は事前の相談後にお知らせします。
6. 本プログラムは、東京都市大学博士前期課程を修了した方、またはタマサート大学博士前期課程を修了した方のみ参加が可能です。



学校法人五島育英会 **東京都市大学**

教学部 教学課（世田谷キャンパス）

〒158-8557 東京都世田谷区玉堤 1-28-1

メール：sckyoumu@tcu.ac.jp
